

第12採択地区教科用図書調査研究専門員による調査研究の結果報告

種目（教科等）【数学】

<p>書名 項目</p>	<p style="text-align: center;"><b>新編 新しい数学</b> ～MATH CONNECT 数学のつながり～</p>		<p style="text-align: center;">2 <b>東 書</b></p>
<p style="text-align: center;">内容</p>	<p style="text-align: center;">＜生徒が「必要感」・「思考の深まり」・「達成感」を味わうことができる工夫がされているか＞</p>		
	<p>○「必要感」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学びたくなるめあての提示の工夫</li> <li>・課題解決に向けた「見通し」の工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各節に、学習意欲を高めるための導入課題が設定されており、身近な問題を解決する活動から学習につながるような工夫がされている。</li> <li>・「章とびら」の疑問を解決するための活動が設定されており、さらに疑問に思ったことを②で示し、章の学習につなげている。</li> <li>・導入で活用できるデジタルコンテンツが充実している。</li> </ul>	
	<p>○「思考の深まり」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒自身の思考を広げ深める工夫</li> <li>・学び合いの視点</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習得した知識・技能を活用して問題解決をする「深い学び」のページが設けられており、生徒が自ら考え、対話を通して考えを深める授業が展開できるような工夫がされている。</li> <li>・「同じように考えると」で既習事項との共通点や相違点を見つけ、統合的に考えることを促したり、「それなら」で条件を変えて新しい内容を見だし、発展的に考えたりすることができるような構成となっている。</li> </ul>	
	<p>○「達成感」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した単元計画の工夫</li> <li>・学んだことを理解確認する「まとめ」の工夫</li> <li>・学んだことを生かし、生活を豊かにする態度につながる工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元を貫く課題が設定されており、章を通して身につけてほしい資質・能力を生徒に伝えることができるようになっている。本文は「Q」、「例」、「問」という流れの展開で構成されており、「例」と似た問題にマークが付いていたり、よく間違えてしまいがちな誤答に「×まちがいの例」があったりと、個に応じた基礎・基本の定着を図る工夫がされている。</li> <li>・「学びをふり返ろう」を設定し、学習の中で働かせた数学的な見方・考え方を振り返って価値づけられるようになっている。</li> <li>・章の問題Aには「ふり返りレポート」が用意されていて、学習を振り返る場面が設けられている。</li> <li>・巻末には、その章で働かせた見方・考え方を振り返る「数学の目でふり返ろう」が設定されており、自ら学びを切り拓こうとする態度を養うとともに、次の学習につなぐことで、発展的に考えて、自ら学びを深める態度を養うことができる構成となっている。また、「数学のまど」や「数学×仕事」では、実社会において数学を活用している職業等を取り上げることで、数学を学ぶことの有用性が実感できるよう工夫がされている。</li> </ul>	
	<p style="text-align: center;">＜教科等横断的な視点を取り入れた工夫がされているか＞</p>		
<p>○「教科等横断的な視点」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語活動</li> <li>・情報活用能力</li> <li>・問題発見・解決能力の視点</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・段階的な解法ステップを用意し、解決の見通しを立てさせたり、考え方を説明する言語活動が意図的に設けてあったりと、主体的に学習に取り組むことができるような展開、構成になっている。</li> <li>・他教科と関連がある箇所「教科リンク」をつけ、他教科の教科書紙面を見ることができるようになっている。</li> </ul>		
<p style="text-align: center;">その他</p>	<p>＜資料の構成・配列や表記・表現＞</p> <p>○生徒が学びたくなる資料（挿絵・写真・図表等）の工夫が見られるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルコンテンツの中には、自分の住んでいる地域の題材を使った身近な資料を通して、数学に関心をもつきっかけづくりとなるような資料もあり、興味を引き出す工夫がされている。</li> </ul> <p>○教材や内容の文章表現の難易度について、生徒の発達の段階からどのような工夫が見られるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・つまずきの多い内容を同じページ内ですぐに確認できるようになっている。また、学習内容をこまめに確認できる問題があり、生徒がつまずきを早い段階で発見できるようになっている。</li> </ul>		

第12採択地区教科用図書調査研究専門員による調査研究の結果報告

種目（教科等）【数学】

書名 項目	<h1>数学の世界</h1>		4 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">大日本</div>
内容	<生徒が「必要感」・「思考の深まり」・「達成感」を味わうことができる工夫がされているか>		
	○「必要感」 ・学びたくなるめあての提示の工夫 ・課題解決に向けた「見通し」の工夫	・すべての章に、問題発見・問題解決の流れの4つのステップを示した課題を設け、生徒が問題解決の仕方を身につけることができるような構成となっている。 ・例題などには、実生活に活用し得る問題が多く、数学を学ぶ意義を感じられるような工夫がされている。	
	○「思考の深まり」 ・生徒自身の思考を広げ深める工夫 ・学び合いの視点	・生徒が話し合ったり、考えを提示し合ったりする場面が意図的に設けられており、主体的・対話的に学習を進め、協働的な学びにつながる工夫がされている。 ・間違いやすい箇所、その例が記載されており、批判的思考も養うことができる工夫がされている。 ・他者の考えが妥当かを判断する問題「判断しよう」や、他者の考えの内容を説明する問題「伝えよう」、学習を振り返ったり、広げたり、活用したりする問題「学びにプラス」が設けられており、思考力・判断力・表現力の育成を図るための工夫がされている。	
	○「達成感」 ・単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した単元計画の工夫 ・学んだことを理解確認する「まとめ」の工夫 ・学んだことを生かし、生活を豊かにする態度につながる工夫	・課題を解決するための見通しを立てさせ、段階に沿って考えを進められるような構成となっている。章の学習は、「活動」、「例」、「例題」、「Q」で構成され、ここで基礎・基本を身に付けさせたうえで「プラス・ワン」で補充し、力をつける内容となっている。 ・章末では、3観点に基づいた評価を、生徒自身が行えるようになっている。また、「総合問題」「学習のまとめ」を設け、繰り返し学習できるような構成となっている。 ・巻末にある「活用・探究」や「課題学習」では、身近な場面での活用や、他教科の学習と関連付けた課題が取り上げられている。また、数学が生活に活かされていることや、数学の面白さを味わうことができる読み物「MATHFUL」が設けられており、学習した数学の有用性を実感できるように工夫されている。 ・「社会にリンク」では、職業の中で活用されている数学を紹介したり、「フード・マイレージ」など持続可能な社会を見据えた資料について取り上げたりするなど、数学を学習する必要性や活用する重要性を感じることができる資料が掲載されている。	
	<教科等横断的な視点を取り入れた工夫がされているか>		
○「教科等横断的な視点」 ・言語活動 ・情報活用能力 ・問題発見・解決能力の視点	・数学的な表現を用いて話し合いが意図的に行われるよう課題設定されており、言語活動の充実につながる工夫がされている。 ・章や節のとびらページや問題、「学びにプラス」では、他教科と関連する内容があり、教科等横断的な視点で考えられるように工夫されている。		
その他	<資料の構成・配列や表記・表現> ○生徒が学びたくなる資料（挿絵・写真・図表等）の工夫が見られるか。 ・デジタルコンテンツが使える内容には「WEB」マークが付けられており、活用することで、操作を通して特徴や変化を調べることや、説明を動画で確認することができる。 ○教材や内容の文章表現の難易度について、生徒の発達の段階からどのような工夫が見られるか。 ・インデックスや例・例題にタイトルが付けられ、理解の助けとなっている。また「補充問題」では自主的に取り組める問題を設けており、個に応じた学びが進められるよう工夫がされている。		

第12採択地区教科用図書調査研究専門員による調査研究の結果報告

種目（教科等）【数学】

書名 項目	中学校 数学		11 学 図
内容	<生徒が「必要感」・「思考の深まり」・「達成感」を味わうことができる工夫がされているか>		
	○「必要感」 ・学びたくなるめあての提示の工夫 ・課題解決に向けた「見通し」の工夫	・各章、各節の始めに「疑問を発見する」ページが設定され、章・節の学習の必要性を実感できるように構成されている。 ・疑問を数学化した問題「Q」と目標を設定し、学習の出発点を明確にしている。「Q」から目標までは、生徒の対話場面が設定されたり、この問題を解決する際に使用する見方・考え方（一覧が各学年示されている）が示されたりすることで、問題解決の見通しを持たせるようにしている。また、目標を設定することで、問題を解決する意欲を引き出す工夫がされている。	
	○「思考の深まり」 ・生徒自身の思考を広げ深める工夫 ・学び合いの視点	・思考力・判断力・表現力の育成に向けて、すべての章において「数学的活動のページ」が設定されている。また、解決への過程を示すことで、見通しを持って取り組める工夫がされている。さらに、統合的・発展的な学習につながるように、学習の最後に新たな問題が提示されている。 ・章末の「深めよう」では、章で学習した内容を活かし、さらに深めたり広げたりすることができる課題が設定されている。	
	○「達成感」 ・単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した単元計画の工夫 ・学んだことを理解確認する「まとめ」の工夫 ・学んだことを生かし、生活を豊かにする態度につながる工夫	・学習の区切りでは、目標に対して、解決できたことを明らかにする場面「どんなことがわかったかな」を設定し、学びの振り返りができるようにされている。また、次の課題が示され、学びが連続的になるように工夫されている。 ・章の最後に「できるようになったこと」「さらに学んでみたいこと」を記入する欄があり、章全体の振り返りや今後の学習につながるようになっている。 ・「章のまとめの問題」「さらなる数学へ」「深めよう」などで、学習内容が身の回りの事象に活かされていることを紹介したり考えたりすることで、主体的な学びにつながる構成となっている。 ・すべての節に基礎・基本が習得できているか確認できるページ「確かめよう」、章の最後に基本、応用、活用の3つに分類し、習熟度に応じて確認ができるページ「章のまとめの問題」、「数と式」の領域において、計算技能の習熟を図るためのページ「計算力を高めよう」が設定されている。	
	<教科等横断的な視点を取り入れた工夫がされているか>		
○「教科等横断的な視点」 ・言語活動 ・情報活用能力 ・問題発見・解決能力の視点	・「数学的活動のページ」では、対話的に学習が進められるように工夫され、言語活動（説明する力）の充実が図られている。 ・各学年の巻末にプログラミング体験のページや、「データの活用」の領域では表計算ソフトの使い方が紹介されている。 ・各学年の巻頭に「数学の学び方」の説明があり、問題発見、問題解決、まとめ、新たな課題発見までの過程が示されている。		
その他	<資料の構成・配列や表記・表現> ○生徒が学びたくなる資料（挿絵・写真・図表等）の工夫が見られるか。 ・「Q」から「目標」までの流れや「数学的活動のページ」などで、生徒の吹き出しによる対話が多く用いられ、学習内容の興味・関心を高めることや理解につながるような配慮がされている。 ○教材や内容の文章表現の難易度について、生徒の発達段階からどのような工夫が見られるか。 ・各領域に入る前に、小学校の内容や前学年までの学習を振り返ることができるように工夫されている。また、本文中に側注や二次元コードがあり、これまでの学びを確認できるようになっている。個別最適な学びができるように「章のまとめの問題」の習熟に応じた確認や、授業中の個人差に対応した練習問題「やってみよう」が設定されている。		

## 第 1 2 採択地区教科用図書調査研究専門員による調査研究の結果報告

種目（教科等）【数学】

書名 項目	中学数学	17 教 出
内容	＜生徒が「必要感」・「思考の深まり」・「達成感」を味わうことができる工夫がされているか＞	
	<p>○「必要感」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学びたくなるめあての提示の工夫</li> <li>・課題解決に向けた「見通し」の工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各章の始めに「学習する前に」のページを設け、既習内容を確認してから新しい章への学習にスムーズに移行できるように配慮されている。また「Let's Try」や導入課題「Q」では、作業や観察、実験などの活動に取り組んだり、新しい法則や性質を見出だしたりする場面が豊富に設定され、生徒が主体的に問いをもって学習に入れるように工夫されている。</li> <li>・新しい小節の学習に入る際に見通しを持たせるために、学習目標が示されている。</li> </ul>
	<p>○「思考の深まり」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒自身の思考を広げ深める工夫</li> <li>・学び合いの視点</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年に「学びのプロセス」のページが設定されている。側注に学びのプロセスを示し、問題発見・解決の過程を意識しながら主体的・対話的で深い学びが展開できるように工夫されている。</li> <li>・巻頭に「大切にしたい数学的な見方・考え方」が紹介されている。また、数学的な見方・考え方を働かせたい場面では、吹き出しに記号を用い、生徒が主体的に考えられるよう配慮されている。</li> </ul>
	<p>○「達成感」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した単元計画の工夫</li> <li>・学んだことを理解確認する「まとめ」の工夫</li> <li>・学んだことを生かし、生活を豊かにする態度につながる工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容のまとまりごとに学習してわかったことや解決のしかた、数学的な見方・考え方のよさを生徒の言葉で示すことで、学習の振り返りにつながるよう工夫されている。</li> <li>・すべての節に基礎・基本が習得できたか確認できるページ「基本の問題」や、章の最後には基礎・基本「たしかめよう」、応用「力をのばそう」、活用「学んだことを活用しよう」の3つに分類し、習熟度に応じて確認できるページ「章の問題」が設定されている。</li> <li>・各章末の最後に「学習のまとめ」のページがあり、その章で学んだことを自分の言葉で振り返る機会が設定されている。またその際、学習感想の例示も示されている。</li> <li>・本文中や章末、巻末には、学習内容を深めるコラムやさらに探究する課題を掲載している。数学の世界と日常生活や社会とのつながりを感じさせ、数学を学ぶ意欲が高まるよう工夫されている。</li> </ul>
	＜教科等横断的な視点を取り入れた工夫がされているか＞	
	<p>○「教科等横断的な視点」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語活動</li> <li>・情報活用能力</li> <li>・問題発見・解決能力の視点</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「みんなに説明しよう」では、誤った考えを意図的に取り上げ、自分の言葉で説明する力を身につけられる場面が設定されている。</li> <li>・「データの活用」領域において、統計的に問題を解決する方法（P D A C サイクル）が教科書に示され、批判的に考察・判断したりする力を養えるように構成されている。</li> <li>・各学年の巻頭に数学の学習の学び方の説明があり、問題発見から問題解決、まとめ、新たな課題の発見までの学びのサイクルが示されている。</li> </ul>
その他	＜資料の構成・配列や表記・表現＞	
	<p>○生徒が学びたくなる資料（挿絵・写真・図表等）の工夫が見られるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・章の導入、具体場面では、挿絵や写真を用いて、学習効果が高まる工夫がされている。また、吹き出しなどを用い、生徒が円滑に学習を進めることができるような配慮がされている。</li> </ul> <p>○教材や内容の文章表現の難易度について、生徒の発達の段階からどのような工夫が見られるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルコンテンツ「まなびリンク」が設定され、図形の性質やデータの傾向など、学びを深められるようになっている。巻末には補充問題の設定や実力アップ問題、3学年には総合問題など個に応じて学習できるようになっている。</li> </ul>	

第12採択地区教科用図書調査研究専門員による調査研究の結果報告

種目（教科等）【数学】

<p>書名 項目</p>	<p style="text-align: center;"><b>未来へひろがる数学</b></p>		<p style="text-align: center;">61 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">啓林館</span></p>
<p>内容</p>	<p style="text-align: center;">＜生徒が「必要感」・「思考の深まり」・「達成感」を味わうことができる工夫がされているか＞</p>		
	<p>○「必要感」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学びたくなるめあての提示の工夫</li> <li>・課題解決に向けた「見通し」の工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各節に導入課題として学習のとびらを設け、身の回りの題材を取り上げることで、生徒が興味・関心を持って主体的に学習に向かうことができるように構成されている。また、既習事項をまとめた「ふりかえり」や、既習事項から新たな学習につなげる「ひろげよう」が設けられており、主体的な学びにつながる工夫がされている。</li> <li>・「データの活用」領域を除くすべての単元で「利用」の節が配置されており、生徒が場面から問題を発見・解決し、見通しを持って学習を深められるように構成されている。</li> </ul>	
	<p>○「思考の深まり」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒自身の思考を広げ深める工夫</li> <li>・学び合いの視点</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項が「ふりかえり」として本文中に設定されており、新出内容と統合的に考え、理解を深められるように構成されている。また、巻末の「学びをいかそう」では、数学的な見方・考え方を働かせることで思考を広げ深める問題が設定されている。</li> <li>・生徒が自ら画面上で操作し図形や関数を捉えられるようなコンテンツを、本文横の二次元コードから利用することができる。また、例題や章末問題の解説、補充問題も二次元コードから利用でき、個別最適化された学習ができるよう工夫されている。</li> </ul>	
	<p>○「達成感」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した単元計画の工夫</li> <li>・学んだことを理解確認する「まとめ」の工夫</li> <li>・学んだことを生かし、生活を豊かにする態度につながる工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「章のあしあと」では、その章で学んだことを自身の言葉でまとめる活動が設定されており、生徒が自らの学びの深さを確認し、次の学びにつなげられるよう工夫されている。</li> <li>・「例」や「例題」の解答は、ノート形式で途中式が記載されており、生徒が自ら学習に取り組むときの参考にできるよう工夫されている。</li> <li>・「利用」の場面において「ステップ方式」を取り入れており、問題設定、解決、改善、新たな問題設定といった数学的な問題の発見や解決の見通しを意識できるような構成となっている。</li> <li>・章末にある「数学ライブラリー」では、身の回りで数学が活用されている場면을豊富に取り上げ、数学が、生活や社会で有用に働いていることを実感しながら学習できるよう工夫されている。</li> </ul>	
	<p style="text-align: center;">＜教科等横断的な視点を取り入れた工夫がされているか＞</p>		
<p>○「教科等横断的な視点」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語活動</li> <li>・情報活用能力</li> <li>・問題発見・解決能力の視点</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の豊かな表現力や統合的に考える力を養うために「説明しよう」「話し合おう」「まとめよう」といった言語活動のコーナーが設定されている。</li> <li>・統計的問題解決の力を養うために、「データの活用」領域では、PPDACサイクルに沿って学習に取り組めるように紙面構成が工夫されている。</li> </ul>		
<p>その他</p>	<p>＜資料の構成・配列や表記・表現＞</p> <p>○生徒が学びたくなる資料（挿絵・写真・図表等）の工夫が見られるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容に関連する写真や、本文の説明を補うための説明図、表、対話のイラストが効果的に使われており、生徒の理解を助ける工夫がされている。</li> </ul> <p>○教材や内容の文章表現の難易度について、生徒の発達の段階からどのような工夫が見られるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・章ごとにインデックスがついている。色覚の個人差を問わず判別しやすい配色や、ユニバーサルデザインフォントを採用している。本文の文章は、単語の途中での改行を避け、意味や文節による改行となっている。</li> </ul>		

第12採択地区教科用図書調査研究専門員による調査研究の結果報告

種目（教科等）【数学】

書名 項目	<h2 style="margin: 0;">これからの数学</h2>	104 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">数 研</span>
内容	<生徒が「必要感」・「思考の深まり」・「達成感」を味わうことができる工夫がされているか>	
	○「必要感」 ・学びたくなるめあての提示の工夫 ・課題解決に向けた「見通し」の工夫	・問題解決型学習を意識し「Q」「TRY」「例」「問」「練習問題」という流れの中で、基礎・基本の定着を図るとともに、学習意欲を高められるような展開となっている。めあてが授業の展開の順番に合わせて示され、生徒が円滑に学習内容を意識することができるように工夫されている。 ・各章の導入で、写真やイラストが多数使用されており、興味をもって章の内容に入ることができるような話題や活動題材が掲載されている。
	○「思考の深まり」 ・生徒自身の思考を広げ深める工夫 ・学び合いの視点	・対話場面による展開が多く、複数の意見を比較し要点をまとめることで、数学的な見方・考え方を自然に使い、学習内容の理解を深められるような構成となっている。また、章末にある「学んだことを活用しよう」や巻末にある「ぐんぐんのぼそうチャレンジ編」では、数学的な見方・考え方を働かせることで思考を広げ深められるような工夫がされている。 ・デジタルコンテンツが使える内容には「Link」マークが付けられており、紙面の下部に掲載された二次元コードを利用することで生徒の実態に合わせた学習内容の関連コンテンツが閲覧できるよう工夫されている。
	○「達成感」 ・単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した単元計画の工夫 ・学んだことを理解確認する「まとめ」の工夫 ・学んだことを生かし、生活を豊かにする態度につながる工夫	・巻頭に「学習の進め方」を示すことにより、講義・発表・グループワークの学習活動に見通しがもてるようになっている。また「学びの自己評価」を示すことにより、学習を通して身に付けたい事項を自ら確認できるよう工夫されている。 ・「例」の解答は途中式が記載されており、生徒が自ら学習に取り組むときの参考になるよう提示されている。複数の解答例を並べて載せている問題があり、考え方の深まりとともに思考の広がりも意識した内容となっている。 ・学習の区切りごとに確認問題が設定されており、スモールステップで学習の振り返りができるように構成されている。 ・章末の「学んだことを活用しよう」では、生徒の身近な話題から、数学を学ぶことの有用性が実感できるよう工夫されている。また「やってみよう」や「調べよう」など、その章で学習した事項を活用するような活動的な話題が設けられており、興味・関心に応じた取扱いができるようになっている。
	<教科等横断的な視点を取り入れた工夫がされているか>	
○「教科等横断的な視点」 ・言語活動 ・情報活用能力 ・問題発見・解決能力の視点	・学習活動の中で見いだした事柄、解決の方法、成り立つ理由を説明する機会が設定されており、言語活動の充実が図られている。 ・統計的問題解決の力を養うために、「データの活用」領域の学習ではPPDACサイクルに沿って構成されている。	
その他	<資料の構成・配列や表記・表現> ○生徒が学びたくなる資料（挿絵・写真・図表等）の工夫が見られるか。 ・写真や図が多用され、生徒の目を引く紙面構成となっている。また、身のまわりの事象と関連づけた課題が多数用意されており、学習への興味・関心を高めるような工夫がされている。 ○教材や内容の文章表現の難易度について、生徒の発達の段階からどのような工夫が見られるか。 ・章ごとにインデックスがついている。図やグラフを書く問題は外側に配置され、書き込みやすくなっている。配色やフォントはユニバーサルデザインに配慮されており、全ての生徒が支障なく学習できるように配慮されている。	

第12採択地区教科用図書調査研究専門員による調査研究の結果報告

種目（教科等）【数学】

書名 項目	<h2 style="margin: 0;">中学数学</h2>	116 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">日 文</span>
内容	<b>&lt;生徒が「必要感」・「思考の深まり」・「達成感」を味わうことができる工夫がされているか&gt;</b>	
	○「必要感」 ・学びたくなるめあての提示の工夫 ・課題解決に向けた「見通し」の工夫	・各章に学習の出発点となる「Q」や学習内容に対する「めあて」が明確に示されている。 ・各章の始めに「次の章を学ぶ前に」が設定され、既習事項を確認することで、新しい章への学習にスムーズに移行できるよう配慮されている。また「章の扉」では、興味・関心を高める工夫がされ、疑問を数学の問題として解決していく過程が示されている。 ・「学びに向かう力を育てよう」のページが各章に1か所以上設定されており、学習したことをもとに主体的に学習に取り組む態度を育成する構成となっている。
	○「思考の深まり」 ・生徒自身の思考を広げ深める工夫 ・学び合いの視点	・主体的・対話的で深い学びを実現するために「学び合おう」のページが各学年4か所ずつ設定されている。自分で考え、対話を通して学び合うといった問題解決の過程が示されている。巻末には「対話シート」が付属され、このシートの活用をとおして、考える力や説明する力を高めていけるように工夫されている。 ・学習場面の横欄に「大切な見方・考え方」が示され、思考力・判断力・表現力の育成を図る構成となっている。
	○「達成感」 ・単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した単元計画の工夫 ・学んだことを理解確認する「まとめ」の工夫 ・学んだことを生かし、生活を豊かにする態度につながる工夫	・原則1時間の授業で扱う内容を小節として構成している。そのため、学習の区切りが明確で、学習の焦点化が図れ、効率的に復習することができるよう配慮されている。また、次の課題が示され、学びが連続的になるような構成となっている。 ・すべての節に基礎・基本が習得できているか確認できるページ「基本の問題」や、章の最後を基本と応用の2つに分類し、習熟度に応じて確認ができるページ「章の問題」「とりくんでみよう」が設定されている。 ・各章末の「章の問題」の最後に、その章で学んだことを自分の言葉でまとめる機会が設定されている。 ・「SDGsと数学」や「数学を仕事に生かす」「数学研究室」では、数学の世界が日常生活や社会とつながるような話題を取り上げ、数学のよさを実感し、数学を学ぶ意欲を高められるように工夫されている。
	<b>&lt;教科等横断的な視点を取り入れた工夫がされているか&gt;</b>	
○「教科等横断的な視点」 ・言語活動 ・情報活用能力 ・問題発見・解決能力の視点	・「学び合おう」では、自分の考えを整理し、お互いの考えを伝え合う活動を通して、言語活動の充実につながるようになっている。 ・「データの活用」領域において、統計的に問題を解決する方法（P P D A Cサイクル）が示され、批判的に考察・判断できる態度が身につくように構成されている。	
その他	<b>&lt;資料の構成・配列や表記・表現&gt;</b> ○生徒が学びたくなる資料（挿絵・写真・図表等）の工夫が見られるか。 ・写真、図、表を用いて、学習内容に対する興味・関心を高められるような工夫がされている。また、イラストや吹き出しなどで学習を支援したり、多様な考えがあることに気づかせたりするような配慮がされている。 ○教材や内容の文章表現の難易度について、生徒の発達の段階からどのような工夫が見られるか。 ・個別最適な学び、協働的な学びの実現につなげるためにデジタルコンテンツが豊富に設定されている。巻末には補充問題の設定や活用の問題、3学年には総復習問題などが設置され、個に応じた学習できるようになっている。	